

川口市の障害福祉事業所の充実を

川口市立わかゆり学園と生活介護事業所「夢工房」を視察



夢工房



わかゆり学園

川口市には市直営の「わかゆり学園」(生活介護事業所、就労支援B型事業所、地域活動支援センター、児童発達支援センター)が設置されています。また、川口市社会福祉事業団でも生活介護事業所夢工房を運営しています。

昨年の6月市議会で、わかゆり学園の一部事業の廃止縮小などが反対意見がある中で決められてしまいました。また鳩ヶ谷市ではじまった生活介護「きじばと」と就労継続支援B型の「きじばと」の2施設も廃止を決定し、利用者・保護者・関係者の多くの方が撤回を求め声をあげてきました。

最後まで声を上げてきましたが、市は生活介護「きじばと」を3月末で廃止し、現在は利用者のうち9人が同じ社会福祉事業団が運営する「夢工房」に通っています。

一度に9人もの利用者が増える「夢工房」には「きじばと」でかかわっていた職員も配置され、職員が一丸となって利用者を守るために努力を続けています。

視察にいった際には以前の事業所の雰囲気とはガラリと変わっていましたが、安全に一日を過ごせるように職員が声をかけ、かかわりを持っていました。

また、わかゆり学園にもきじばとから3人が通いはじめていますが、市職員数が減る中で社会福祉事業団に生活介護事業の一部を社会福祉事業団に委託しています。わかゆり学園の就労継続B型事業所も、今年度末での廃位となるため利用者の来年度からの転所調整を並行しており、通常の作業と他事業所への見学・実習など利用者も変化を受け入れざるを得なく、職員も今後の支援の在り方を利用者・家族と相談を継続しています。わかゆり学園には長期間在籍されている利用者も多く、市の障害福祉事業の在り方が障害当事者や家族の人生にも大きな影響を及ぼしています。市が利用者・家族に信頼される対応こそ必要です。

地域活性化・生活環境向上特別委員会

5月25日(月)、川口市議会の地域活性化・生活環境向上特別委員会が開催されました。議題は①川口元郷駅前施設の利活用についてと②(仮称)神根総合運動公園整備事業(現地視察)についてでした。

【川口元郷駅前施設の利活用について】

そもそも川口元郷1丁目2番地区共同化事業により、埼玉高速鉄道線川口元郷駅前広場北側の芝川沿いにある、道路として整備予定であった市有地について、完成した建物の権利床と交換し、公共床を取得するとともに敷地内に歩道状空地を設け、歩道機能を確保したものです。その公共床部分を活用して市の施設として利活用するというものですが、当時の市議会において日本共産党は反対しました。

市は地域経済活性化に役立つ事業の場として活用を予定しているとしていますが、現状は、今年3月に公共取得部分を引き渡しがありましたが、そのスペースを使って事業を開始するのは来年の7月の予定とのこと。しかしながら、委員会での質疑からその部分の管理費負担金は年77万9400円、修繕積立金が年43万1520円かかるため市として予算化して負担することになっています。

【神根総合運動公園整備事業について】

現地視察は、神根総合運動公園整備事業についてですが、県の屋内プール整備に併せて、市の神根西公民館と北スポーツセンターの建て替え、4つの屋外運動施設を整備するものです。令和9年7月に使用開始予定となっています。雨水貯留施設が整備されていることも特徴となっています。

2026年5月31日

No.1838

新川口

日本共産党川口市議会議員団

川口市前川2-28-10

TEL.267-8411 FAX.261-3528

<https://www.kawaguchi-jcp.jp/>

金子ゆきひろ 松本さちえ 板橋ひろみ ふじしまとこ

保健医療・子ども家庭支援等福祉対策特別委員会

5月22日(金)に「保健医療・子ども家庭支援等福祉対策特別委員会」が開かれ「きじばと・わかゆり学園の見直しに伴う対応の進捗状況について」と「高額医療機器稼働状況等について」報告がありました。

【きじばと・わかゆり学園の見直しに伴う対応の進捗状況について】

「生活介護きじばと」については、3月末日時点で24人中4人の転所先未決定の方が居ることを踏まえ、同じ建物において川口市社会福祉事業団が運営する市内の施設、「生活介護夢工房」の従たる事業所として引き続き転所調整を行っていき事になりました。最長令和8年9月を期限に施設を廃止予定とし、それまでに転所調整が終わればその時点で廃止されます。廃止後は医療ケアの必要な障害者や強度行動障害のある障害者等に対応した生活介護事業所を開設する予定です。

「就労支援きじばと」については19人中18人の転所先未定です。就労継続支援B型事業所を運営できる民間事業者を公募しており、事業開始までの間は川口市社会福祉事業団による継続運営を行います。なお公募では「生活介護きじばと」であった施設も同じ事業者が運営を行う事になっています。現在の作業や工賃が引き継がれるかどうかは公募先との協議によって決まるそうです。

また、わかゆり学園の就労継続支援B型事業所の廃止に伴う対応については、22人中9人の方が転所先未決定で再調整中です。令和9年3月末までに、全ての利用者の転所調整が完了するよう随時転所を進めていく事になっています。わかゆり学園の生活介護事業所を希望する利用者については随時学園内で見学・実習を進めることとなります。

【高額医療機器の稼働状況等について】

令和8年4月1日時点で、予算書に記載された取得価格4000万円以上の物品が15点存在します。最も古いもので2009年取得になりますが、老朽化の状況、メーカーによるサポート体制、故障時の診療への影響、患者や医療従事者の安全性、経営状況など総合的な評価により更新優先度を明確にし、必要なものから更新していく事になります。

都市基盤整備・危機管理対策特別委員会

公民共有のまちづくり・「川口駅周辺まちづくり指針(素案)の策定について」

5月22日に開催された都市基盤整備・危機管理対策特別委員会は、①川口駅周辺まちづくり指針(素案)の策定について ②高度シミュレーターを活用した救急活動についての報告や現地視察が行われました。

「川口駅周辺まちづくり指針(素案)の策定について」は、令和4年3月に「川口駅周辺まちづくりビジョン」が策定、令和7年4月に「川口駅上野東京ラインホーム及び自由通路等整備計画に関する基本協定」が締結される中、将来的な上野東京ラインの川口駅停車を見据え「川口駅周辺まちづくり指針(素案)」を作成したものです。委員会では、その概要や今後の進め方について報告されました。

【指針の対象区域】

川口駅東口駅前広場を中心としたその隣接街区を基本とする。(対象施設等：ららテラス川口・かわぐちキャスト・東口駅前広場・パーキング117・川口キュポラ・川口駅・川口西公園・西口駅前広場・リリア・美術館)

【指針の内容について】

(ア)まちづくりを進める上で3つの市の理念を設定

- ①「上野東京ライン停車の効果を最大化」
- ② 既存ストックの最大限の活用と必要に応じた更新
- ③ 公民共生のまちづくりの実現

(イ)ビジョン実現に向けた3つの戦略を設定

- ①拠点力の強化 ②魅力的な空間づくり ③ブランド力の確立

(ウ)駅周辺を4つのエリアに分け、まちづくりに必要となる取り組みを設定

- 取組1 自由通路を含む川口駅及びペDESTリアンデッキの再整備
- 取組2 駅前広場の再整備
- 取組3 川口西公園リノベーション
- 取組4 周辺市街地における機能配置

民間主導になりかねないこと、事業内容の透明性が確保されるのか、多額の税金を要する事業となるなど問題があり、地権者は少数であり、事業計画の段階から市民への情報提供や市民に対する説明や合意が重要であり、住民本位のまちづくりを進めることが行政の責任です。